

入選 低学年の部 サンタクロースになったおじいちゃん

群馬県
前橋市立時澤小学校三年

磯田 真輝

ほつべはガチガチで、はなは、こおりみたいで、鼻水が出ているのも分らない。さむさに涙がこぼれてくる。

お正月のぶあつつい、重い新聞をほくたち五人のこともとお母さんの車にのせて、配るのを、手伝う、二年の始まりの行事でした。おじいちゃんは、三十八年間、七十五才まで、自転車で、新聞配達をガンバっていました。暑い夏の日には、カブト虫をたくさん取ってきてくれました。おじいちゃんの手は大きくって、グローブみたいな手でした。そんな、おじいちゃんが、こしがいたいと、ねこんでしまいました。病気はガンでした。大きなグローブみたいな手は、とまりに行くたびに小さくなっていました。春の暖かい日に車イスで外を少しだけサンボしに行った時に、道にへびがいました。ほくはドキッとしましたけれどおじいちゃんは、「真輝、へびをいじめたりするな。こわくないからな。ジャンプをしてみろ。」と言われて、ジャンプをしました。へびはスルスルと畑へにげて行きました。「一年生になったら、ひとりで帰れるか。」と、やさしい顔して笑って言いました。そんなおじいちゃんも、病院に入院する日、「ごくらましく行ったら、ランドセル買ってやれないな。」って、きゅうきゅう車が来た時、ほくが見た事のない、かなしい顔で行きました。

病院におみまいに行くと、おじいちゃんは、うれしそうに、

「これが外まご三人、こつちが内まご二人、後一人にランドセル買ってやらないと、死んじゃあられないんだよ。」いつもとかわらないやさしい顔で、病室の人を笑わせて、お母さんがニコリ笑って、ほく達が帰るとき、かならず、「ありがとうナ。」明日は、おじいちゃんをむかえにきてくれ。「おじいちゃんはサンタクロースになるんべかナー。」と大声で笑っていました。そんな、おじいちゃんは、ほくが年中の夏休みになくなってしまいました。お母さんが泣いていました。家に来る人みんな、泣いていました。

病院から帰って来たおじいちゃんは、いつもとかわらない、やさしい顔でねていました。ほくが二年生になった時、おばあちゃんから「おじいちゃんからのプレゼントだよ。」と黒い大きなランドセルをもらった。ランドセルがありがとう。まぶしいオレンジ色の初日の出を見せてくれてありがとう。学校の帰り道にね、へびがいたよ。ジャンプをおしえてくれてありがとう。お姉ちゃんには紙のお金、お兄ちゃんは五百円二まい、ほくには百円玉十まいの意味、算数で数を先生におそわったよ。みんな同じおこ使いだっただね。生まれた日の新聞を取っておいてくれてありがとう。サンタになつてくれ。ほくは、来年は4年生になるんだ。